



平成 27 年 9 月 浜松市立船越小学校

参観会にて 「家庭教育講話」

お箸の持ち方教室・読み聞かせ・豆わたしゲーム



平成 27 年 6 月 浜松市立曳馬小学校

6 年生 「夢の叶えかた 講演会」

箸の使い方が気になりませんか。正しい箸を使えない人が増えているのを受け、NPO法人「ミナの森プロジェクト」(浜松市天竜区)が、箸の美しい使い方を伝授する活動「日本お箸道」を始めた。使い方を楽しく学ぶことができる絵本を作り、段位を認定するなどの活動を進めている。  
(木許はるみ)

プロジェクトの上嶋常夫代表(左)はテレビのグルメ番組を見ていた時、出演者の箸の使い方が気になった。他のメンバーらにこの話をすると、同じように感じていた人も多かったという。和食が一昨年、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録されたこともあり、箸をテーマに食育や地域活性化などに力をつけていくと企画した。

自作の絵本「豆わたし」(岩崎書店、A4判三十二ページ)は、箸を使って豆を移す競争で、対立していた二つの村が和解するストーリーで、箸の正しい使い方の解説も添えた。上嶋さんが原案を担当し、浜松市出身のイラストレーターで水墨画家の岡田潤さんに絵を依頼し四月中旬に出版した。豆渡しができる木製のゲーム盤も作り、絵本の読み聞かせとゲームの上達度に応じて段位を認定する、子どもから大人までを対象にした箸の持ち方教室を窓枠ビル(中区)で随時開いている。プロジェクトのメンバーが指導し、教室を開くことができる最高位の「師

# 「お箸道」浜松で始動

## 正しい使い方 楽しく伝授



### NPO法人 絵本やゲーム作る

「箸を育成し、飲食店やボランティア団体など各地での教室の普及を目指している。小学校での食育週間やPTA総会での教室開催の要望も来ているという。」

上嶋さんは「箸を正しく使えば、食材や食事を作ってくれた人への感謝の気持ちが現れる。一緒に食べる

親指の根本で箸の一本をはさんで薬指を添えて、もう一本を親指で押さえて中指で支えて人さし指を置く。人さし指と中指を使って一本だけ動かすのが正しい持ち方だ。目白大(東京都)が2009年に3、94歳の8069人を対象に、ピンポン球を箸で容器



絵本や豆を移すゲーム盤で箸の使い方を伝授する「日本お箸道」を始めた上嶋さん(左)ら。浜松市中区の窓枠ビルで、箸の正しい方を楽しく学ぶことができる絵本「豆わたし」の一部

子どがいることが分かった。親の箸の使い方が気になる時もあり、仲間と話題になる」という。「しっかりと教える場があった方がいいと思う。食育講座として取り入れたい」と関心を寄せる。

上嶋さんは外国人の参加も想定する。絵本を翻訳して飛行機内でPRしたり、旅行業者とともに旅館や日本食レストランで教室を開き、外国人師範を誕生させて自分の国の和食料理店で箸の文化を継承してもらうことも考えている。

講座と絵本の問い合わせは、ミナの森プロジェクト 電話053(415)8050へ。

図部で進中の人